

◇ 第43回神奈川県福祉作文コンクール 共同募金会海老名市支会長賞

(敬称略)

氏名	学校名	学年	作品名
はやし すすな 林 紗椰	海老名市立杉本小学校	5年	認知症から学んだ事
ふじもと ゆい 藤本 結衣	海老名市立海老名小学校	5年	ばあちゃんの教え
もりもと ちひろ 森本 千尋	海老名市立海老名中学校	2年	本当のバリアフリー
ゆぐち あやな 湯口 紋菜	海老名市立今泉中学校	2年	福祉とは

海老名市支会長賞

認知症から学んだ事

海老名市立杉本小学校 五年 林 紗椰

「大きくなったね。何年生になったの？」

「五年生です。」

私は今までこの同じ質問に何度も答えています。

大人なのに何で同じことを聞くのだろう。どうして覚えてくれないのかなど、いつも不思議でした。お母さんに聞くとその人は「認知症」であると教えてくれました。認知症は新しいことを覚えることが出来ず、すぐに忘れてしまう病気だそうです。

私のお母さんはデイサービスで働いています。そこである時こんなやりとりを見ました。

「今日のおやつは何？」

「プリンですよ。」

と答える職員さん。数分後また同じやりとりがくり返されます。職員さんは何度同じ事を聞かれても、「さっき言ったよ。」ではなく、きちんと答えていて、やさしいなど私は思いました。また、部屋の中をぐるぐると歩いてしまう人にも、

「どこに行くの？一緒に行こうね。」

等と声をかけていました。他の人だったらきっと、「行かないで。」「ダメ」と否定をしようのにすごいなと思いました。

認知症の人の中には上手く話すことができない人もいます。私も小さい頃おもちゃを取られそうになり、こわいと思ったことがありました。しかし、認知症という病気と知り、今ではこわいとは思いません。認知症の人と話す時、私はしっかり目を見て、ゆっくりと話すようにしてます。そうすると相手に伝わりやすいのです。伝わった時に見せてくれるやさしい笑顔が大好きです。これからも私は何度でも「五年生です。」と答え続けます。そして、大きくなったら、病気の人を笑顔にし、助けることのできる仕事ができるようになりたいです。

ばあちゃんの教え

海老名市立海老名小学校 五年 藤本 結衣

私の家には、ひいおばあちゃんがありました。大正二年生まれです。二〇一八年、十月五日の金曜日にのうこうそくで天国に行ってしまいました。そんな長生きなひいおばあちゃんを「ばあちゃん」とよんでいました。

ばあちゃんは、右耳が悪かったです。なので左の耳元で話していました。でも少しずつ悪くなっていったのでホワイトボードなどを使い、筆談で会話していました。

ばあちゃんは家でつえをついて歩いていました。初めは一本足のつえから、四本足のつえになり、次は歩行器を使い、手引きになりとだんだん歩くことに助けが必要となってきてしまいました。人の手を借りないと歩けない体になってしまったことがひじょうに残念でした。何もいらずに歩けることがとても大切だと分かりました。

百才前後から、外では車イスを使うようになりました。ばあちゃんが乗っているとき、私も何度かおしたことがありました。その時、きんちょうしました。「車イスがうら返ったらどうしよう」など色々なことを考えていました。うら返らないように走らない、段差につまづかない、などを気を付けました。特に人混みは気を付けました。車イスをおしたことで本当に「歩く」ことが大切だと学びました。

ばあちゃんはデイサービスに行っていました。私がイベントのもちつきに行った時、たくさんのおじいちゃんおばあちゃんがありました。ずっと泣いてるおばあちゃん、すぐおこるおばあちゃん、しゃべらないおじいちゃん、やさしいおじいちゃんおばあちゃんがありました。世の中にはこういう人がいるのだと分かりました。

天国に行った今、外で困ってる高齢者がいたら助けてあげようと思います。

ばあちゃんから教えてもらいましたから。

本当のバリアフリー

海老名市立海老名中学校 二年 森本 千尋

来年の東京オリンピックに向け、メディアはバリアフリーをとりあげている。その意味について、大まか分かっているつもりだが、本当のところは知らない。

調べてみると、バリアフリーとは対象者が社会生活を円滑に送る為に障害をとり除いた状態を表す用語。心のバリアフリーとは意識上のバリアを感じている人の身になり考え行動する事、とある。物理的な事は理解していたが、後者の精神面ではどうだろうか。

例えば、手伝おうとしても断られがっかりする事がある。自分でやりたいという人や、自分でできる人もいる事はわかる。が、こちらも勇気をふりしぼって声をかけているのに…と思う。相手の気持ちを尊重すればこうした自分の思いは気にならなくなるのだろうか。又、目に見えないハンデを抱えた人にはどう配慮すべきかも難しい問題だ。一見わからないのだから困っているか判断がつかない。かといってハッキリわかっている状態ではなくても、目もくれないのは心苦しい。

手助けをしようと断られても淋しい思いがわき、手助けを必要かもと感じていながら無視するのも自分が許せない。

こんな心情をふりきり、声を挙げ、対象の人に行動する、又、無関心を失くす事が正にバリアフリーなのだ。

目が不自由で杖を使っている人の為に設置された点字ブロックは、実は車いすの人には転倒の危険があったり、スムーズに操作できないというデメリットがあるそうだ。老人や足をしっかり上げて歩けない人もつまずき易いと、テレビで放送していた。

本当のバリアフリーは、物理的な苦難を円滑に過ごすようにするだけでなく、むしろ内面にあるのではないだろうか。もちろんこれは健常者と対象者の双方が認識していなければ成り立たない。どちらか一方通行の心情では、どちらかが傷ついてしまうだろう。互いに障害の有無に関わらず、一人一人の人間である事を尊重できれば、そんなに難しい事ではないだろう。難しいのは、自分自身の心と向き合い、相手を尊重できるぐらい、自分に自信を持ってなくてはならない事だと私は思う。

今の私にはそんな自信はまだない。あしなくては、こうしなくてはと理解はできている。もしかしたらこの考え自体が間違っているかもしれないが…。もっと寛容でいいのかもしれない。あれこれ考えてしまうからいけないのかもしれない。

心のバリアフリーは誰にでも必要で、かつ誰にでも有効なものであるとわかる。障害のあるなしに留まらず、困っている人に声をかけるのだから。私が道に迷い、人に教えてもらっても、これは「心のバリアフリー」と言えるだろう。

約一年後にオリンピックを控え、パラリンピックの事もよく目にする。彼らはすごい。日常生活すら大変だろうと先入観はあるが、否、アスリートなのだ。肉体的以上に精神的な強さがなくてはならない、心のアスリートでもあるのだ。

オリンピック、パラリンピック。このタイミングでだけ目を向けて良いのだろうか。バリアフリーは日常でなければならない。老若男女の誰にでも手助けが必要な時はあり、またその助けを借りて成長するチャンスは与えられているのだ。あとは個人個人の考え方で世の中は変わる。居心地をよくするのも自分。悪くするのも自分。

互いを尊重しあい、可能な限り歩みよる。言葉にするのは簡単だが、これ程難しい事はないだろう。人が人として生まれ、何をスタートとし、何をゴールとするか問うならば、どちらも同じだと思う。「本当のバリアフリー」だと。

神奈川県共同募金会準優秀賞
海老名市支会長賞

福祉とは

海老名市立今泉中学校 二年 湯口 紋菜

「福祉」とは何なのでしょう。

あなたはこの問いをすぐに答えることができますか。そう言われてみると困ってしまいます。また、福祉など自分とは無関係だ、と思った人もいるかもしれませんね。

この問いはチャリティーを題材としたある授業中に先生から生徒に投げかけられたものです。私はその時、何も考えつきませんでした。この世の中には老人ホームなどの福祉施設や、身体が不自由な方のためのバリアフリーがありますが、それらについて興味をもって考えたことは一度もありませんでした。しかし、問いをきっかけに少し関心を持ったので国語辞典で「福祉」を調べてみると、「人々が安心できる環境」と記してありました。私なりに福祉とは環境作りを指すのではないかと予想しましたが、先生はこう言いました。

「福祉とは幸せであること」と。

私の学校にはボランティアを中心に活動している福祉委員会というものがあります。例えばハロークリーンという活動です。これは生徒が登校中にゴミを拾い、地域を清掃することで見守ってくださっている方々に恩返しをしようという活動です。この活動を「幸せ」という言葉を使って説明すると、身の回りの環境が綺麗になることで恩返しになり、道も心も美しくなりみんなが幸せになる活動である、と思います。

福祉委員会の活動にはこれ以外にも年に数回行う募金活動があります。この委員会ではユニセフ募金、赤い羽根募金を実施しています。昨年、ユニセフ募金では二万四千百三十円、赤い羽根募金では一万三千六百八十円集まりました。

ユニセフ募金は世界の恵まれない子どもたちのために、赤い羽根募金は地域福祉のためにお金が集められています。

この二つも「幸せ」について説明すると、ユニセフ募金は世界の恵まれない子どもたちが幸せになれる募金、赤い羽根募金は地域の人々が幸せになれる募金といえると思います。

学校では様々な活動を通して人々の幸せに貢献していますが、私生活ではどうでしょうか。私は学校生活でしか幸せに貢献できていません。ボランティア活動も数えるほどしか参加したことがありませんし、障害を持っている人に声をかけたことも一度もありません。私みたいな人は多いと思います。しかしこの状況は変えて行かなくてはならないと感じています。なぜなら、そのままで一部の人だけが幸せであるからです。皆が幸せになれる社会にすべきであると思うのです。

そこで私たちに実現できそうなことを考えてみました。例えば毎月一円募金することです。ユニセフ募金では一円で病気を予防、治療できるカプセル錠を調達することができます。また、点字ブロックの上を歩くことを避けることや、バスでお年寄りの方に席を譲ったりすることも、幸せへの貢献ができていないかと思います。

福祉とは「幸せ」であり、ボランティアとは幸せへの第一歩となる活動である。私は福祉について深く考えることでこの答えに辿り着きました。

皆さんにとって、「福祉」とは何ですか。